

講師 茂木喜久雄

経済学

第 1 問

競争市場における企業の主体的均衡条件を明示し、供給者が複数存在する市場と少数または 1 社が支配している市場との資源配分上の議論を明示するとともに、資源配分上の効率性だけを考えた場合、複数の企業を設立して競争させるよりも、1 社に独占的な供給を認めて固定資本設備の重複を避けたほうがよいことがある。こうした企業の形態を説明し、(1)少なくともパレート最適が達成されるような価格政策 (2) 補助金による公益企業化しなくても独立して採算が可能な価格政策 (3) 独占の弊害についても言及しなさい。

第 2 問

政府が行う財政支出について、次のような三つの見解がある。

(効果-1) 財政支出を行なうと、乗数効果によって民間消費が刺激される。

(効果-2) 財政支出を行なうと、民間支出が圧迫される。

(効果-3) 財政支出を行なっても乗数効果はないが、需給ギャップに影響を与えることから、消費を刺激する効果がある。

これらの三つの見解について、次の設問に答えよ。

(1) 均衡財政の制約の下で、前提となる経済状況及び理論的根拠を示しつつ、三つの見解について論ぜよ。なお、解答の際には必要に応じて図や数式を使うこと。

(2) (1) での議論を前提に、我が国の景気の現状について述べつつ、現状では三つの見解のうちどれが最も適切であるかについて、理由付けをしながら説明せよ。また、望ましいと考えられる財政支出の考え方も述べよ。